

# 読書推進運動



公益社団法人  
読書推進運動協議会

〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町1-32  
出版クラブビル6階  
TEL 03(5244)5270  
FAX 03(5244)5271  
発行人 小塚 昌弘  
編集人 片岡 伸子

定価 60円  
会員の購読料は  
会費の中に含まれる

No.635

★「読書週間」がはじまります！(2頁)  
★第50回野間読書推進賞 受賞者決定(3頁)

「読書週間」によせて

## そこに本がある風景を



一般社団法人日本書籍出版協会理事  
株式会社河出書房新社代表取締役社長  
小野 寺 優

おの であらまざる  
小野 寺 優

かつて私たちの周りには本があふれていました。

町に出ればさまざまな書店や図書館があり、電車に乗ればみな、本を読み耽つていて、家に帰れば家族の本が積んでありました。さまざまな場所

で、さまざまな本を目にするなかで、私たちは自然に本を手に取り、自らの視野を広げてきたのです。

しかし、そんな「本のある風景」がいま、この国から失われつつあります。書店の数はこの20年で半減し、日本の自治体の5分の1には新刊書店が1軒ありません。公共図書館の数は増えていますが、図書購入費は減っています。私たちの生活から本や、本に出会う場所がどんどん失われているのです。そんな

かです。私たちはなにをすればよいのでしょうか。

大学受験に失敗し浪人生活を送っていたころ、予備校の先生がこんな話をしてくれました。

「君たちは、よく切れるナイフを舐めたことがあるかい？」

「ありません」

「僕はある。あれは甘いんだよ。研ぎ澄まされた薄い刃を舌の付け根に当て、手前にスーッとひく。甘い。そうすると舌がスーッとふたつに裂ける」

なんだか口の中がムズムズします。

「今度はそのナイフを舌の側面にあて、左から右にスーッとひく。やつぱりほのかに甘い。そうするとね、舌が、ポロツと、床に落ちるんだ」

「……口の中が気持ち悪くなりました」  
すると先生はニヤツと笑い、こう言ったのです。  
「そうだろう。いま、君はナイフを舐め、舌を切り落とされたんだ。そしてそれが本を読む、つてことだ」  
18歳の私にとってそれは衝撃的なことばでした。「読書でなら、あらゆることを体験できる」とはじめて実感させられた、私にとつての「読書推進」そのものでした。  
読書という行為は他人が押しつけるものではありません。特に若い人たちに「頭が

らに口をモゴモゴさせています。その瞬間、先生は私を指しました。

「君はいま、僕の話聞いてどんな感じがした？」

「……口の中が気持ち悪くなりました」

「そうだろう。いま、君はナイフを舐め、舌を切り落とされたんだ。そしてそれが本を読む、つてことだ」

18歳の私にとってそれは衝撃的なことばでした。「読書でなら、あらゆることを体験できる」とはじめて実感させられた、私にとつての「読書推進」そのものでした。

読書という行為は他人が押しつけるものではありません。特に若い人たちに「頭が

よくなるから本を読め」などと言っても反発を招くだけでしよう。遠回りであっても、私たちにできるのは、「本つて面白そうだな」と思わせる環境やきっかけを作ることだけ。だから私たちは、本と出会う場所を増やし、本に関わる情報を、いまにふさわしい方法で広く発信し続けなければならぬ。その方法についてみなでともに考えてゆければいいな、と思います。

今回のコロナ禍のなか、町の書店に多くの人が足を運びました。不思議なことに、なにか困ったとき、不安なとき、人は本を求めます。心のどこかで本に新たな知見や深い思索、ワクワクする喜びや安らぎを求めている人はきつとたくさんいます。生活の中で多くの人が自然に書店に立ち寄り、家族連れが、ときにはディズニールランドの代わりに本のイベントを楽しみにするようにな、本が近くにある日常を作れないだろうか——そんなことを夢想します。



2020 第74回

# 読書週間

10月27日[火]~11月9日[月]

14日間

10月27日は文字・活字文化の日

主催=公益社団法人 読書推進運動協議会

主要構成7団体=

- 一般社団法人 日本書籍出版協会
- 一般社団法人 日本雑誌協会
- 一般社団法人 教科書協会
- 一般社団法人 日本出版取次協会
- 日本書店商業組合連合会
- 公益社団法人 日本図書館協会
- 公益社団法人 全国学校図書館協議会

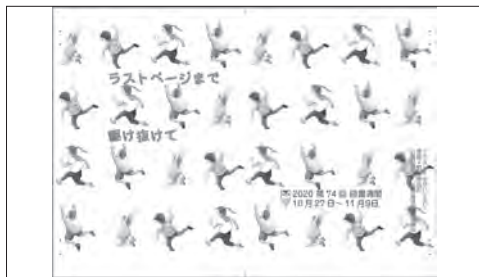
後援=文部科学省



ページを「駆け抜ける」楽しさは、  
コロナ禍でも変わらない！

10月27日(火)より、「読書週間」がはじまります。今年の標語は「ラストページまで駆け抜けて」。春先より続く重苦しい雰囲気吹き飛ばすような明るくはつらつとした標語とポスターが、たいへん好評をいただいております。特に、小学校から高校まで学校現場での人気が高く、ポスター掲出に加えて、校内で発行する「図書館だより」にて紹介したいというお問い合わせが増えています。ポスター画像の掲載につきましては、加工(縦横比率の変更、色の置き換え、画像の切り抜きなど)せずにそのままの形でしたら、問題ありません。

ポスターは公共図書館へは各道府県読書推進運動協議会・各都道府県立図書館、学校図書館へは全国学校図書館協議会、書店へは日本出版取次協会の協力により各販売会社を通じて配布しております。部数追加をご希望の施設や団体は、遠慮なく当協議会事務局へお申しつけください。



今年のブックカバーの主役は子どもたち！  
(ホームページよりダウンロード可能)

また、過去のポスターデータの貸出も例年同様に行っておりますので、興味をお持ちの方は事務局までご連絡ください。

ホームページ「素材集」のポツプツやしており、ブックカバーのデータも公開しております。今後のデータ作成の参考といたしますので、活用事例など、ご意見、ご感想をぜひ、事務局までお寄せください。ポスターのJPEGデータもこちらにあります。

本年も、「読書週間」雑誌広告を用意し、日本雑誌協会の協力により各雑誌出版社へ掲載を呼びかけました。10月1日現在で、14社51誌の協力をいただいております。おもに10月中旬~11月初旬発行の雑誌に掲載されます。

全国の公共図書館、図書室で開催されました行事について、「読書週間」終了後に各道府県読書推進運動協議会より報告をいただき、来年4月に本紙別冊付録「行事報告一覽」を発行します。

緊急事態宣言下での開催となつた、今年の「こどもの読書週間」の行事報告(本号別冊付録)は、近年の半分以下のページ数となりました。少しずつ以前の日常が戻ってきているとはいえ、まだまだ大人数を対象とした講演会や講習会、特別おはなし会の開催がむずかしい地域も多くあります。それでも、ページを駆け抜ける楽しさ、喜びが、多くの人へ届きつつかけとなる「読書週間」となつてほしいと、願っています。

## 2020年度・第50回

# 『野間読書推進賞』決定

9月14日(月)、東京都千代田区の出版クラブビルで行われた『第50回野間読書推進賞選考委員会』において、2020年度の受賞者が左記のとおり決定しました。

### 《団体の部》

- ・世田谷親子読書会 (東京都世田谷区)
- ・おはなしの木 (宮崎県宮崎市)
- 《特別賞》第50回記念
- ・三島読書グループ連絡協議会 (愛媛県四国中央市)

今年度の野間読書推進賞は、道府県読書推進運動協議会や教育委員会などに受賞候補者の推薦をお願いしました。

いただいた推薦数は、団体の部24(前年13団体)、個人の部0(前年5人)。

本年は、新型コロナウイルス感染症対策のため、野間読書推進賞事業委員による第一次選考会を書面にて開催しました。委員に資料を送付し、各候補者への評価とその理由をご回答いただき事務局で集計。集計結果を委員に送り、再度意見をいただいたうえで、選考会に向けて9団体を選出し、委員

豊かな感性や創意工夫を育てる多彩な要素が盛り込まれ、本を「読む」だけでなく本を通した体験も大切にしてきました。

各例会は情報を共有し、全体でのイベントとして、「子どもフェスティバル」、外部から講師を招いての一般向け「勉強会」をそれぞれ年一回開催。また、世田谷区立図書館利用者懇談会に所属して図書館職員、その他利用団体と意見交換を行い、地域での読書活動推進の基礎も築いてきました。

宮崎県から初の受賞者おはなしの木は、県内実演活動の先駆け。1986年に読み聞かせやストーリーテリングを通じて、子どもたちに本を読む楽しさを伝えるために設立されました。以来、宮崎県立図書館で週一回のおはなし会を開催し、月一回定期的な勉強会を重ね、実演技能の維持・向上を図ってきました。会員の入れ替わりはありますが、現在まで人数がほぼ変わらず続いているのは、読み聞かせ講座などを開講し、新しい会員を募ってきた成果といえます。

宮崎県立宮崎病院小児病棟で32年間、毎週金曜日におはなし会を開催し、闘病中の子どもたちに本の楽しさを伝えてきました。のほか、県内の幼稚園・保育園・小

学校・中学校などでもおはなし会を行っており、活動の広がりは県内随一です。県内の読書活動の推進、読書ボランティアおよび指導者の育成にも熱心に取り組みしてきました。

第50回記念の特別賞を受賞した三島読書グループ連絡協議会は、1964年に発足。四国中央市三島図書館を拠点に「お互いに学び合い、磨き合い、共に向上したい」をモットーに地道な活動を重ねて、今年創立56周年を迎えます。市内に多彩な読書会が誕生した1970年代後半より、市読書活動研究大会の主権をはじめ、市内・愛媛県内での講演活動、講師を招いての読書講演会開催、交流



を深める研修活動と活動を大きく広げました。

特に毎年開催される四国中央市文化協会文化祭では、「言葉の楽しさ、言葉のちから」をテーマに継続的な展示やイベントを行い、幅広い世代に読書や地域文化の魅力を伝えてきました。また、1998年に開催した読書講演会は、朝の読書が市内すべての小中学校で実施されるきっかけとなりました。現在は、市内保育園保護者を対象としたおはなし会を開催し、いつそう、地域の読書活動への貢献に努めていて、その姿は、愛媛県内の読書グループへ大きな刺激となっています。

今年度は、全国から多くのすばらしい団体の推薦をいただいた一方、個人の推薦がなく、選考会でも残念との声がありました。推薦いただいた団体には、中心となっている方の行動力、企画力が際立っているものもあり、個人に焦点をあてての推薦も一考いただければと思います。

贈呈式は11月6日(金)、午前11時より、東京都千代田区神保町の出版クラブビルにて開催します。本年は新型コロナウイルス感染症対策として規模を縮小し、贈呈式のみで開催となります。

■「本の日」各種キャンペーン実施へ

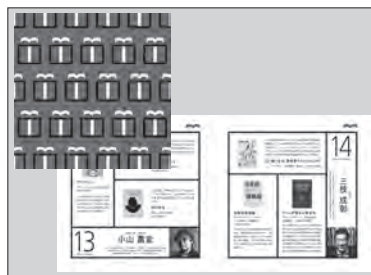
## 11月1日は「本の日」 全国の書店が参加するキャンペーン

今年で3回目となる「本の日（11月1日）」のキャンペーンとして、「本の日」実行委員会は11月1日（日）～11日（水）に、図書カードネットギフトが当たる「11月1日は本屋さんへ行くこう！2020『本の日』キャンペーン」を実施する。景品総額は200万円分。

図書カードネットギフトは、メールやSNSで贈れる電子版の図書カードで、カードタイプのもと同様に全国の加盟書店で本や雑誌の購入に利用できる。

このキャンペーンでは、全国の参加書店が店頭に応募用QRコードを掲出。来店者はコードを読み取り、応募する。一部の書店では、期間内に独自イベントも企画・開催される予定。実行委員会では、「ぜひ、お近くの本屋さんへお出かけください」と呼びかけている。また、運営事務局「文化通信社、協賛」「本の日」実行委員会「ギフトブック・キャンペーン」も開催される。こちらは、「本の日」からクリスマス・年末年始にかけて、本を贈る習慣を提案する。全国の参加書店で、阿刀田高さん、大野和士さん、木村佳乃さん、隈研吾さんほか、読書好きで知られる各界の著名人34名が選んだ「贈りたい本」1冊100円（税別）で販売。掲載図書を店頭で紹介し、

「11月1日は本屋さんへ行くこう！」  
キャンペーン告知ポスター



ギフトブック・キャンペーン  
カタログ

「贈るモノ」として、本が持つ新たな価値の発見につなげたい」と抱負を述べている。

キャンペーンの詳細は各サイトで確認を。

●「本の日」実行委員会サイト  
<https://honohi.com/>

●「ギフトブック・キャンペーン」特設サイト  
<https://giftbooks.jp/>

■来年の「上野の森親子ブックフェスタ」開催にむけて

## 新しい形のフェスティバル開催を 目指して協議中！

毎年5月3日（祝）～5日（祝）に東京都台東区の上野公園で開催している絵本・児童書のイベント「上野の森親子ブックフェスタ」は、読書推進運動協議会が事務局を務める「子どもの読書推進会議」が、日本児童図書出版協会、出版文化産業振興財団（JPIIC）とともに、運営委員会を組織して共催しています。

残念ながら新型コロナウイルス感染症流行のため、2020年度の「上野の森親子ブックフェスタ」は中止となつてしまいました。運営委員会ではその代替として、今年12月にWeb上でのイベント開催を模索してまいりました。

しかしながらオンラインイベントの準備にはなお時間がかかることや、当該時期がクリスマス商戦の繁忙期にあたり、出版社、書店など関係先の負担が大きくなるなどの点から、オンラインイベント単独での開催を見あわせ、来年5月にリアルイベントとオンラインイベントを組みあわせた、新しい形式の「上野の森親子ブックフェスタ」を開催することといたしました。

具体的なプログラムは現在検討中ですが、従来の絵本・児童書の謝恩セールなどは規模を縮減し十分なコロナ対策を施したうえで現地で開催し、一方オンラインでは出版社や作家団体の協力も得て、講演会、読み聞かせ会、ワークショップ、読書相談などを同時中継や録音で配信する構想です。

詳細が決まりしだいご案内しますので、どうぞ楽しみにお待ちください（新型コロナウイルス流行状況しだい変更になる場合もあります）。

上野公園まで行けない人もこの雰囲気味わえる？



上野公園まで行けない人もこの雰囲気味わえる？

■ JBBY 世界の子ども本講座 オンライン開催

## 赤羽末吉の生涯と絵本の世界をじっくり読みとく

9月27日(日)、日本国際児童図書評議会(JBBY)は、「JBBY 世界の子ども本講座 2020」の第1回「国際アンデルセン賞受賞画家 赤羽末吉の生涯と作品」デビュー作『かさじぞう』から読みとく』を、オンラインで開催した。講師は、『絵本画家 赤羽末吉 スーホの草原にかける虹』の著者で、赤羽末吉研究家の赤羽茂乃さん。茂乃さんは末吉さんの義理の娘にあたる。

講演は3部構成。第一部『かさじぞう』の誕生は、東京下町での少年期を経て、満州へ渡り、満州の画壇で活躍しながら各地のスケッチに明け暮れた末吉さんが、51歳でデビュー作絵本『かさじぞう』を出版し、絵本作家となるまでが紹介された。

第二部は、『かさじぞう』を読みたぐ。同書の特徴である扇面を用いた画面構成の工夫、雪国への徹底的な取材を踏まえて表現される雪の質感などを、一場面ずつていねいに紹介。「登場人物の性格や心情を草で表現する、こ

に『絵本で生きていく』という父の決意がうかがえる」と語った。

第三部「赤羽末吉の絵本」では、「子どもは絵本で人生を体験する」という信念に従い、入念な取材を積み重ねて絵本に奥ゆきと深みをもたらしたと、子どもが心の底からおもしろいと思え、生きる喜びとなるユーモアを追求した創作姿勢が、『ハネとりころべえ』『そらにげろ』などより解説された。

また、満州での生活や引き揚げ体験を通じ、大人でありながら戦争を止められなかった責任を最後まで持ち続け、「平和のために自分ができるのは絵本を描くこと」と創作に取り組んでいた姿も紹介された。

講演では、著書では紹介されていない貴重なスケッチや、末吉さん自身が撮影した資料写真なども多く紹介された。

質疑応答の前には、講演会を聴講していた画家の久根根さんが、チェコのプラハより飛び入り参加。「私もヨーロッパで大陸的な風景にふれ、日本の美意識を理



「かさじぞう」を中心に赤羽作品の魅力と背景が紹介された

解しました。いっぱい見たものをそのままではなく、色や筆の形にして伝える。茂乃さんの本を読み、自分はどう表現していけばよいか、気持ちを新たにしました」と感想を述べた。

JBBYでは今後も「世界の子ども本講座2020」をオンラインで実施。第2回は絵本作家田島征三さんを講師に迎え、「デビューから55年 挑戦する絵本作家・田島征三の現在、そしてこれから!」を10月31日(土)に開催する。参加には事前の申し込みと参加費(事前払い)が必要。申し込みは10月30日(金)まで可能。申し込み方法など詳細は、JBBYホームページまで。

● JBBY ホームページ  
<https://jbbv.org/>

■ 図書館総合展 オンライン開催へ

## ヴァーチャル図書館見学も！ 多数のライブイベントを予定

新型コロナウイルス感染症拡大にともない、図書館総合展運営委員会は、「第22回 図書館総合展」を11月1日(日)～11月30日(月)の間、オンラインで開催すると発表しました。

期間中を通じ、講演会、座談会、実践報告、ヴァーチャル図書館見学会などのイベントが配信される。とくに、コア日となる4日(水)～6日(金)には、多くのライブイベントが集中的に配信される。イベントによっては、期間中に録画の再配信もある。

配信スケジュールやイベント内容・参加方法は同展特設サイトで確認できる。特設サイトでは「本や情報を生み出すお仕事、届けるお仕事」「広がる図書館の役割とサービス」「本を展示するツールを作るプロフェッショナルたち」「図書館関係の仕事、本の関係のことにつきたい高校生はこれを見て」など、テーマ別のイベントを見たらよいかのナビゲーションも用意されている。

参加費は無料。事前に「新・図書館総合展 ONLINE」を

書館総合展アカウント」への登録をしておくことが望ましい。また、各イベントの参加(視聴)には、参加証明書を発行するサービスがあり、公務での参加者にはありがたい。Webツールの使用に慣れていない参加者のための相談窓口も、特設サイトに設けられる。

同運営委員会では、「時間や距離の制約でこれまで来場できなかった地域や分野の参加者にもぜひ、参加してほしい。会場が全国に散ったかのように、会期中、参加者が各地の施設などにふれられるようにしたい。こんな時世だからこそ、ゆかいに、愉しんでもらいたい」と、参加を呼びかけている。

● 図書館総合展「ONLINE」特設サイト  
<https://2020.libraryfair.jp/>



今年の「図書館総合展」開催案内冊子

本紙8ページにてお知らせしますように、早くも来年の「読書週間」標語の募集がはじまります。「まだ、今年の読書週間もはじまっていないのに……」と思われる方も多いでしょうが、「読書週間」で本を読みながら、「読書週間」に本を読みながら、行事を企画したり参加しながら感じた思いを、来年に向けてこぼしにするのも、新しい楽しみかたかも？

それまでは7月応募締め切り、8月に決定だった「読書週間」標語が、前年11月応募締め切り、12月に決定となったのは、2016年第70回から。以前は4〜6月のポストイラスト募集時に標語が決まっていなかったため、さまざまなイラストがよせられていました。絵としてはすばらしいのですが、決定した標語とあわずに見送られたイラストも多々あり、スケジュールに不安はありましたが募集・決定時期を早めたのです。



2016年の標語は「いざ、読書」。「いざ鎌倉」なのか本を手にした武将や、スタートラインに並ぶ人、など、いろいろな「いざ」がよせられました。そしてできたポスターは、「いままでの『読書週間』にはなかった感じ」「こういうポップなの、待っていました!」と、好評をいただきました。2017年は「本に恋する季節です!」一転してハートがモチーフの作品が多くなりました。ポスターに採用されたのは、本のハートにかこまれた学生カップル。ふ

今年も好評!  
「読書週間」  
標語とポスター



たりの小指には赤い糸がついているのですが、この糸がどうつながっているのかが見えないのもポイントです。「YA対象の文芸誌みたい」と、中学校や高校の人氣が高かったポスターです。

2018年「ホッと一息 本と一息」のときは、お茶やコーヒーと本を楽しむ、ゆつくりとくつろぎながら本を読む、仕事の合間に本を読む、そんなイラストが多かったのが特徴。ポスターになったのは、あたたかい色と線が見る人を「ホッと」させるシンプル

なイラストでした。鮮やかな色が、展示のアクセントになるとの感想を多くいただきました。2019年の「おかえり、菜の場所です!」では、猫を描いた作品が多くなりました。本や雑誌を広げていると、猫がその上に乗ってくる……そんな現象?からのイメージでしょうか。「猫の表情に癒やされる」と、多くの施設・機関で好評でした。

今年の「ラストページまで駆け抜けて」では、駆けつこのゴールを連想させるものや、本のページを階段やコースに見立てたイラストが多くありました。

この5年のポスターに採用されたイラストには、その年の特徴がふくまれているという共通点があります。標語から受ける普遍的なイメージをよりの確に、構成に工夫をこらして表現されたイラストが選ばれているようです。



# 2018年度全国読書グループ調査 読書グループお名前調査 その4 植物部門・食べもの部門

「読書グループお名前調査」4回目は「植物部門」と「食べもの部門」です。へ内はグループ数となります。

都道府県名、市区町村名、地域名、施設名をそのまま使ったもの(例えば、桜丘町読書会、たんぽぽ幼稚園ボランティアなど)は除いて集計しています。「ひまわり」と「サンフラワー」、「さくらんぼ」と「チェリー」など、日本語と英語は区別して集計しています。

植物部門で使われていることは220。上位は以下のとおりです。

- 1位〈186〉「たんぽぽ」
- 2位〈122〉「ひまわり」
- 3位〈80〉「どんぐり」
- 4位〈57〉「コスモス」
- 5位〈50〉「つくし、つくしんぼ」
- 6位〈38〉「たね」
- 7位〈30〉「さくら」
- 8位〈29〉「あじさい」
- 9位〈27〉「あすなろ」
- 10位〈26〉「くすのき」
- 次点〈21〉「萩」

部門で集計した『そらいろのたね』は除いています。  
7位に日本を代表する花「さくら」がランクイン。  
9位「あすなろ」は「あすなろ物語」からでしょうか？(ちなみに「ひのき」は圏外)。一般の本読書会と実演グループ、子どもの本実演グループと文庫に多く使われています。

1位の「たんぽぽ」は全体の暫定1位も独走中。日本全国各地でも春になれば目にする親しみやすさ、明るい色、意外としつかりした根っこ、ふわふわと広い世界へ旅立つ綿毛などが、人気の理由と思われれます。子どもの本実演グループと文庫が圧倒的ですが、一般の読書会でも使われています。  
2位の「ひまわり」は、太陽を思わせる明るい大きな花が、おはなし会での子どもたちの笑顔を連想させます。

3位「どんぐり」と4位「コスモス」は、読書の秋を彩る風物詩です。  
5位は「つくし、つくしんぼ」。すくすく育つ様子から子どもの本実演グループに、春の野山や田園風景を連想させることから一般の読書会に人気です。九州地方の方言「ずくぼんじょ」を加えると54グループになります  
6位は「たね」。たねだけではなく、「○○のたね」といった使われ方が多いのが特徴。タイトル

- 3位「どんぐり」と4位「コスモス」は、読書の秋を彩る風物詩です。
- 5位は「つくし、つくしんぼ」。
- 6位は「たね」。たねだけではなく、「○○のたね」といった使われ方が多いのが特徴。タイトル

植物部門では、次点以降も比較的得票数が高いことが並びました。一般の本読書会が多く使っている「なでしこ」「こでまり」などの可憐な花や、「ゆずりは」「さわらび」など情緒ある名前が、ズラリとそろっています。

季節は「食欲の秋」、食べもの部門の対象のことは4回でした。  
1位〈49〉「さくらんぼ」  
2位〈33〉「たまご」  
3位〈26〉「りんご」  
4位〈24〉「いちご」  
5位〈20〉「たけのこ」  
6位〈14〉「おむすび、おにぎり」  
7位〈13〉「ドロップ」  
8位〈12〉「こんぺいとう」  
9位〈11〉「アップル」「トマト」  
10位〈10〉「ぶどう」  
次点〈9〉「そらまめ」「豆」の「いちご」

- 1位〈49〉「さくらんぼ」
- 2位〈33〉「たまご」
- 3位〈26〉「りんご」
- 4位〈24〉「いちご」
- 5位〈20〉「たけのこ」
- 6位〈14〉「おむすび、おにぎり」
- 7位〈13〉「ドロップ」
- 8位〈12〉「こんぺいとう」
- 9位〈11〉「アップル」「トマト」
- 10位〈10〉「ぶどう」
- 次点〈9〉「そらまめ」「豆」の「いちご」

食べものを使っているグループは、子どもの本実演グループがほとんど。「いちご」「たけのこ」「いちご」は、文庫にも多く使われています。心の栄養たっぷりの読み聞かせが食べものを連想させるのでしょうか。また、本に興味がない子へのアプローチとして、なじみ深い食べものをグループ名にしているのかも？

1位は「さくらんぼ」。ふたつ並んだ赤い実の愛らしさで、子どもたちをおはなしへ誘うのでしょうか？  
2位の「たまご」は、動物部門に入れた方がよかつたかも？  
3位の「りんご」は9位の「アップル」とあわせると37グループになります。  
5位は「たけのこ」。広く地下にはつた根から、よきよきと育つ姿は、読書推進のお手本のようです。  
6位の「おむすび、おにぎり」と次点の「そらまめ」は、それぞれタイトル部門で集計した『おむすびころりん』『そらまめくん』を除いています。  
料理名ではなく、野菜や果物そのものの名前に人気が集まるなかで7位と8位に「ドロップ」「こんぺいとう」がランクイン。袋や

- 1位は「さくらんぼ」。ふたつ並んだ赤い実の愛らしさで、子どもたちをおはなしへ誘うのでしょうか？
- 2位の「たまご」は、動物部門に入れた方がよかつたかも？
- 3位の「りんご」は9位の「アップル」とあわせると37グループになります。
- 5位は「たけのこ」。広く地下にはつた根から、よきよきと育つ姿は、読書推進のお手本のようです。
- 6位の「おむすび、おにぎり」と次点の「そらまめ」は、それぞれタイトル部門で集計した『おむすびころりん』『そらまめくん』を除いています。
- 料理名ではなく、野菜や果物そのものの名前に人気が集まるなかで7位と8位に「ドロップ」「こんぺいとう」がランクイン。袋や

缶にいろいろな味と色が詰まっていることが、本やおはなしの多様な世界を連想させます。  
ほかの部門に比べ、集計に迷うことが多かったのも、食べもの部門の特徴です。たとえば「いちご」「いちご」「ストロベリー」のほか、「のいちご」「きいちご」もあります。同様に迷ったが、「豆」と「もも」(7)です。このふたつは「そらまめ」「えんどうまめ」「やまもも」に加え、食べものではなくタイトル・キャラクター名から名づけられたとおぼしきものも多く、どこまでを食べものとして集計したらいいのか？迷った結果、定めた基準はつぎのとおりです。

◎「もも」集計基準  
「もも」「桃」「ピーチ」「やまもも」「けもも」：食べものでそれぞれ集計  
計  
「桃の木」「はなもも」：植物で集計  
「モモ」：ミヒヤエル・エンデ『モモ』とみなし、タイトルで集計  
「モモちゃん、ももちゃん」：松谷みよ子の『モモちゃんシリーズ』、またはキャラクター名とみなし、タイトルで集計  
「ももたろう」：タイトルで集計

- ◎「もも」集計基準
- 「もも」「桃」「ピーチ」「やまもも」「けもも」：食べものでそれぞれ集計
- 計
- 「桃の木」「はなもも」：植物で集計
- 「モモ」：ミヒヤエル・エンデ『モモ』とみなし、タイトルで集計
- 「モモちゃん、ももちゃん」：松谷みよ子の『モモちゃんシリーズ』、またはキャラクター名とみなし、タイトルで集計
- 「ももたろう」：タイトルで集計

\*「豆」も同様



# 2021年

## 第63回「こどもの読書週間」

## 第75回「読書週間」

2021年4月23日～5月12日

2021年10月27日～11月9日

### 標語募集!

2021年第63回「こどもの読書週間」と第75回「読書週間」の標語を募集します。

この標語は12月中旬に公益社団法人 読書推進運動協議会の事業委員会で選定し、それぞれのポスターに刷り込んで全国の新聞社・雑誌出版社へ、また道府県読書推進運動協議会、都道府県立図書館を通じて公共図書館などへ、全国学校図書館協議会を通じて全国の学校へ、出版取次各社を通じて全国の書店に送られ掲出されます。

第63回「こどもの読書週間」のポスターは、荒井良二さんのイラストと杉浦康平さんのデザインで製作の予定です。秋の「読書週間」は、4～6月に募集するポスターイラストとの親和性を高めるため、この時期に標語を募集します。これまでの標語は、当協議会ホームページでご覧いただけます。

#### ●《応募要項》

- ① 標語案2～4つも、読書の豊かさ、奥深さ、楽しさ、有用性などを新鮮な感覚で表現した未発表のもの。「こどもの読書週間」標語は、子どもの読書を念頭に「ご応募願います」。
- ② 応募用紙は官製はがき、A4判ファックス用紙、メール
- ③ 応募作品数2「こどもの読書

週間」「読書週間」とともに、ひとり3作まで応募可。返却はいたしません。学校など団体での応募は、下選考をお願いします。

- ④ 締切 2020年11月15日(日) 必着
- ⑤ 賞 2「こどもの読書週間」「読書週間」それぞれに、賞を用意します。▼入選(1作) 図書カード1万円分、標語として採用▼次点(2作) 図書カード5千円分▼佳作(20作前後) 図書カード2千円分
- ⑥ 発表 入選・次点まで「読書推進運動」1月発行号紙上、佳作は賞券送付
- ⑦ 送り先 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル6階 公益社団法人 読書推進運動協議会

「こどもの読書週間」標語係 または「読書週間」標語係 (どちらへの応募か明示してください) FAX 03-5244-15271 メールアドレス hyogo@dokusyo.or.jp 件名は「こどもの読書週間標語応募」または「読書週間標語応募」

### 事務局報告(9月)

- ☆1日 野間読書推進賞事業委員へ一次採点の集計を送付
- ・2日 2021年第54回 造本装幀コンクール実行委員会 Web会議に参加
- ☆3日 野間読書推進賞事業委員の一次採点修正締め切り
- ☆4日 第50回野間読書推進賞最終選考会への通過団体を決定、事業委員会へ通知。選考委員に資料送付
- ・4日 2020年「読書の日」ポスターの件打ちあわせ
- ☆9日 機関紙「読書推進運動」63号入稿
- ・9日 「上野の森 親子ブックフェスタ」運営委員会へ出席
- ☆10日 機関紙「読書推進運動」63号責了
- ☆14日 第50回野間読書推進賞選考委員会を開催
- ☆15日 2020年第74回「読書週間」ポスター出来
- ☆15日 機関紙「読書推進運動」63号出来
- ☆15日 本年度「優良読書グループ表彰」推薦締め切り
- ☆16日 第50回野間読書推進賞「受賞者と推薦人へ賞状送付書面送付」
- ☆18日 新型コロナウイルス感染症対策のため、「若い人」に贈る読書のすずめ」書目選定事業委員会開催に替えて、各事業委員にメールでの投票選考を依頼
- ・23日 大震災出版対策本部運営委員会へ出席
- ☆24日 2020年度第3回常務理事会へ案内を送付
- ☆28日 本年度「優良読書グループ表彰」決定通知を各道府県読書推進協へ送付
- ・29日 伊藤忠記念財団「子ども文庫助成事業」書面審査終了

### 編集部 & 事務局の ひ・と・こ・と

● 毎年「読書週間」ポスターを、ご自身が所属する研修班に配ってくださる中学校の司書さんより、今年もポスターのご希望メールをいただきました。メールには今年のポスターへの期待、司書仲間たちの昨年のポスター活用例や、生徒たちの反応などの紹介もあり、事務局一同、とてもうれしくなりました。そのなかから、ステキなエピソードをひとつ。

● ある小学校の図書室では、図書室の時間になると1年生の栗ちゃんが、「なんで私の名前が書いてあるの?」と不思議そうにポスターを見に来ていました。栗ちゃんは「しおり」がどんなものか知らなかったそうです。司書さんが「しおり」について説明し、プレゼントしたらとても喜んでくれたとか。

● 昨年の標語「おかえり、栗の場所待ってるよ」を決めるとき、標語選定事業委員会で、「栗」のままだと子どもたちが読めないから「しおり」と表記した方がよいのではないかと、と検討されました。結局、わからない場合は、身近な大人に聞いてもらい、会議と読書のきっかけにしてほしいと、漢字表記で決定。ひらがなだったら、栗ちゃん、こまこまでポスターに興味を持ってくれなかったかもしれません。

● 事業委員会での想定と少々ちがいましたが、ポスターが栗ちゃんとしおりの出会いを作りました。「栗」の読み方を聞いた子どもも、きつといる!。今年のポスターの前でどんな出会いが生まれるのか、楽しみです。(伸)